

令和元年度町村議会議長・副議長研修会 報告

報告者 議長：梅村登次、副議長：渡邊圭太
期 日 令和元年5月28日（火）～29日（水）
場 所 東京国際フォーラム ホールA
JAL M1ビル SKY MUSEUM
参加者 加茂郡可児郡の町村議会議長副議長

研修内容 5月28日（火）

「これからの町村議会を考える」 町村議会議員の議員報酬のあり方 最終報告

山梨学院大学法学部教授	江藤俊明氏
明治大学政治経済学部地域行政学科長・教授	牛山久仁彦氏
首都大学東京都市環境学部准教授	長野基氏

以上3名の講師によるデスカッション方式の最終報告の説明が講演されました。

報告・感想

現在、町村議会の議員定数・議員報酬の問題は新聞等又、4月の統一地方選挙でも大きな問題として取り上げられており、町民の皆様、議員、行政も危機感は捉えられているものと思いますが、手つかずの現状ではないかと思えます。

平成29年4月より「町村議会の議員報酬等のあり方検討委員会」が発足され平成31年1月末には12回の上記3氏の委員会のまとめとして最終報告書が配布されました。この報告書は本当に大学の先生だなという130頁もの膨大なものです。全国の町村議会の現状調査、アンケートによる現状の把握、問題点の提起、今後への提案というものですが、2年間での検討でも議会定員の確定、議員報酬の確定など結論はありませんでした。盛んに言われている「議員報酬が少ないから若い議員が誕生しないばかりか、議員の成り手がなく定数不足に陥っているのが現実」との報告でした。ただ、全国での事例では議員定数を議員報酬の額とは関係なく逆に増やした議会、また、報酬は据え置きなのに若手議員の誕生などもあり、議員のやりがい、目指すところによっては現状とは反対の現象もあります。

講演を聞いての結論は、定数にしろ議員報酬にしろ、検討をしている所が違うのではないかという思いです。議会・議員だけの検討では何も解消されません。住民の皆様は議員の役割、仕事、必要性を十二分説明し、理解をして頂き結論を求めるのが我々の責任です。議員はスキルアップを絶えず心がけ今より一歩でも進歩に繋げなければならぬと考えます。

どうか我々議員一層の努力を致しますので、皆様もこの現状に目を向けて頂きご意見、ご指導を賜りたいと思えますので、よろしく願いいたします。

【町村議会特別表彰①】

「小規模議会の在り方を求めて」～夜間・休日議会の挑戦～ 長野県喬木村議会

喬木村の概要

人口 6,364 人 世帯数 2,140 世帯 65 歳以上 2,173 人（高齢化率 34.1%）

議会定数 12 名（1 期 6 名、2 期 5 名、3 期 1 名）

2 年間の議会改革の取り組み

- 1、 議会運営・議員の役割の改善
 - 1 夜間・休日議会改革
議員報酬 143,000 円/月での議員確保に兼業議員を担い手にするため、一般質問を休日、常任委員会は夜間に開催する事で兼業議員の環境整備と住民の傍聴機会を確保している。
 - 2 議員の成り手不足の対策
報酬を引き上げず、地域課題に熱意を持った議員活動で地域貢献する「やりがい」を伝え、後継者育成につなげる事。
 - 3 町村議会の在り方の模索と目指す議会像
役割を兼務するという働き方改革と意識改革。
議員の質の向上と議会のレベルアップ。
議会と議員の役割を改革の取り組みを通して住民が考え直す機会を持ち、「議員の役割・やりがい」を知らしめること。
兼業議員が活動しやすい環境づくり（休日夜間議会）。
村・県・国への提言活動、地区及び団体との報告会・意見交換会。
年間計画の作成と委員会の調査研究活動の公開。
議員各位が公約実現に向けた進捗状況の公開。
- 2、 議会活動の「当たり前」を実施
 - 1 議会機能を果たすための議会運営と議員活動の見直し
一般質問を休日、常任委員会を夜間（2 時間）開催。
議案に対する調査研究時間の確保するため、常任委員会を会期後半に移行。
会議の効率化を図るためタブレット端末・ICT を活用し議案に対する考え方、簡易な質問と回答を共有。
議員 1 人 1 人の考え方を顔写真・実名入りで公表。
 - 2 実施後の課題と今後の取り組み
誰でも政治参加できる兼業議員の働き方を含めた環境の整備を研究。
個人・団体とも少人数による対話・発言の機会を通じて議会の応援団を育成
議会の役割・重要性を知らしめるため議会モニター・若者団体・女性団体・PTA などに次期リーダーを育成。

【町村議会特別表彰②】

「町民に寄り添う議会を目指して」

鳥取県若桜町議会

若桜町の概要

人口 3,208 人 1,364 世帯 65 歳以上 1,473 人（高齢化率 45.91%）

議員定数 10 名 議員年齢 40～49 歳 2 人 50～59 歳 4 人 60～69 歳 1 人
70 歳～2 人（現在欠員 1 名）平均年齢 57.7 歳

教育関係の特色 H24 年 4 月より小中一貫校開設説 幼保一元化 H25 年 4 月より
こども園開園 H26 年 4 月から保育料全面無料化（全国初）

議会の取り組み

- 1、 政策づくりと監視機能の発揮
 - 1 H21 年 9 月議会基本条例制定
町長等の反問権の付与。
議会運営及び議会活動を検証する規定（15 項目の自己評価を公表）。
 - 2 H26 年 3 月より毎月 1 回以上の各常任委員会及び全員協議会の実施
議案審査、視察調査、予算・決算審査意見に対する進捗状況の監視。
 - 3 各特別委員会 8 委員会を設置（H22～29 年度）、現在は 4 委員会設置
 - 4 議員研修の充実
 - 1 泊分の旅費を確保、人権問題に関する研修を毎年開催。
 - 5 社会貢献活動
駅の清掃、公園の草刈り、イベントで特産品販売。
 - 6 子ども議会を H24 年から実施
子どもからの提案で通学道路に縁石鋸、和菓子作り、観光 PR ビデオ作製などが実現。
 - 7 危機管理体制を確立して災害発生時に対応
 - 2、 住民に開かれた議会
 - 1 H22 年より毎年議会報告会の実施（町民の 10%、世帯の 22.5%が参加）
報告会の結果を全員協議会で協議のうえ町長へ提言、ホームページに公表。
 - 2 議会だより年 4 回発行
 - 3 地域振興のためにイベント参加、若桜鉄道・温水プールの利用促進、食文化の継承及び振興に関する議員提案を制定
- まとめとして、町民に寄り添う議会を目指して最後にはすべては「町民の福祉向上」の為、更なる議会改革を目指しているとしています。

【町村議会特別表彰③】

「町民に信頼され存在感のある議会をめざして」

京都府与謝野町議会

与謝野町の概要 人口 21,573 人 面積 108.8 km²

議員定数 16 人 議員報酬 25 万円

議会の取り組み

- 1、 H24 年議会基本条例制定
- 2、 議会懇談会の開催
H24 年から毎年秋に実施(24 自治区 or 小学校単位 8 会場 or 旧町単位 3 会場)、
100~200 人参加での意見・要望を行政へ発信、結果は議会だよりで広報。
- 3、 常任委員会と各種団体との懇談会開催
教育委員、消防団、商工会、観光協会などと懇談、意見要望を議会審議に活かす。
- 4、 議会だよりの充実
全ての議員が自身の質疑を自ら執筆、分かりやすい紙面づくり。
- 5、 議員間討議の実施
- 6、 議会災害対策本部設置要綱の制定
- 7、 こども議会懇談会の開催
H29 各小学校の 5,6 年生 16 名で開催、子ども達からの提案である学校トイレの洋式化・エアコン設置が実現。
- 8、 今後の取り組み
女性の議会参加 (H18 年の合併以後 1 名のみ)。
ペーパーレス化への取り組み。

3 町村議会の報告を聞いて

3 町村とも議員報酬、成り手不足についての取り組みよりは、議会の活性化・いかに住民に寄り添うかを真剣に取り組んでおられます。議会の在りようを住民の皆様が理解し、納得されれば自ずと議員報酬や議員の成り手問題は解決されると思われま。まず、議会そのものが姿勢を示すべきとの考えがありありと感じられた研修でした。議会は行政・町のものではなく住民の為の議会にしなければと思った次第です。これから色々変えていきたいと考えていますので宜しくお願いします。

研修内容

5月29日（水）

「町民に JAL 工場見学（SKY MUSEUM）」

2日目は宿泊先から1時間、電車を2回乗り継ぎ長いホームと階段を上り下りして羽田空港の JAL の整備工場の視察を行いました。中々簡単には視察が出来ないという事でしたが、沢山のグループの中には中学生の修学旅行の視察もありました。大きな工場で、整備の人も1,500名（女性300名）との事ですが工場の中では数人の人が整備をしていただけでした。多くの人命を乗せる飛行機の整備は慎重にも慎重を重ねての作業との説明でした。その中、今年入社のかにも若い顔の研修生が教官の講義を聞いて回っていました、この子達が近い将来この大きな飛行機を整備するかと思うと心の中で一生懸命頑張れとエールを送り研修の最後としました。

